

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等
b.	分類	低炭素水素等
	対象	水素
c.	分類	低炭素水素等
	対象	合成メタン
d.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2の分離回収等技術開発
e.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	製造分野における熱プロセスの脱炭素化
f.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
g.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	グリーンスチール

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	事業に使用する社有車の一部につき、電気自動車等に置き換えることで、排出CO2の削減を行う。

b.	水素
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	還元剤代替・燃料代替として水素を調達し、製造工程での排出CO2の削減を行う。

c.	合成メタン
----	-------

対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	還元剤代替・燃料代替として合成メタンを調達し、製造工程での排出CO2の削減を行う。

d.	CO2の分離回収等技術開発
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	製造工程から排出するCO2の分離・回収を目的に、CCS装置を調達する。

e.	製造分野における熱プロセスの脱炭素化
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	製造工程の熱プロセスにおいて水素への燃料転換を図るため、水素燃焼炉を調達する。

f.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	設備基礎等に使用するコンクリートの一部をグリーンコンクリートに置き換えることでCO2排出削減を行う。

g.	グリーンスチール
対象行動	宣言対象製品の製造
概要	グリーンスチールの製造・供給を通じてサプライチェーン全体でのCO2排出削減に貢献する。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	電気自動車等
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	30%
削減目標における選択対象の位置づけ	電気自動車等を2台/年導入することで、年間1.2tのCO2を削減する。

b.	水素
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	30%
削減目標における選択対象の位置づけ	還元剤・燃料につき石炭、ガス等から水素に代替することで、目標削減率の達成に寄与する。

c.	合成メタン
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	30%

削減目標における選択対象の位置づけ	還元剤・燃料につき石炭、ガス等から合成メタンに代替することで、目標削減率の達成に寄与する。
-------------------	---

d.	CO2の分離回収等技術開発
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

e.	製造分野における熱プロセスの脱炭素化
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

f.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
削減対象	Scope 3 (カテゴリ2)
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	30%
削減目標における選択対象の位置づけ	設備基礎等に使用するコンクリートの一部をグリーンコンクリートに置き換えることで、Scope3カテゴリ2の削減に寄与する。2030年度で1,000m ³ /年の調達により、400t/年のCO2削減を目標とする。

g.	グリーンスチール
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選 択対象の位置づけ	

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	電気自動車等
目標年度	2030年度
定量的目標	2台/年
選択対象に関する定 量的目標の概要	事業に使用する社有車につき、2030年度以降、2台/年を電気自動車等へ置き換える。

b.	水素
目標年度	2030年度
定量的目標	4万t/年
選択対象に関する定 量的目標の概要	供給体制が整うことを前提として、2030年度以降、水素を4万t/年調達する。

c.	合成メタン
目標年度	
定量的目標	

選択対象に関する定量的目標の概要	
------------------	--

d.	CO2の分離回収等技術開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	
e.	製造分野における熱プロセスの脱炭素化
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

f.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
目標年度	2030年度
定量的目標	1,000m ³ /年
選択対象に関する定量的目標の概要	供給体制が整うことを前提として、設備基礎等に使用するコンクリートの一部をグリーンコンクリートに置き換える。

g.	グリーンスチール
目標年度	
定量的目標	

選択対象に関する定量的目標の概要	
------------------	--

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2024年12月20日

JFEスチール株式会社
代表取締役社長 広瀬 政之